

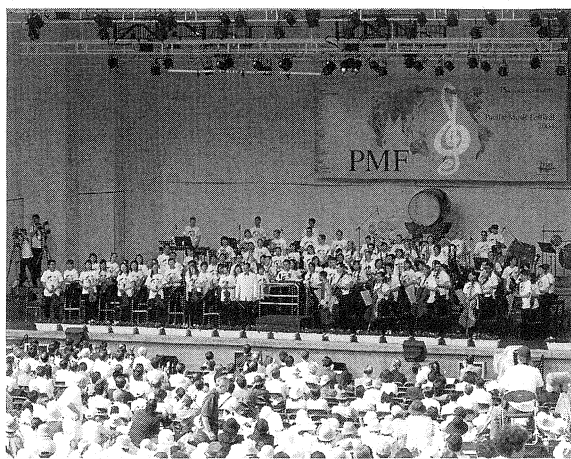
音楽祭はいかが？

音楽を身近に聴いて楽しむことは、今日ではごく自然なことです。しかし、わざわざ演奏会に出かけてまで聴くのは面倒くさい、という感覚をおもちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。演奏会の場合、「どこで」というだけでなく「いつ」ということも限られてしまうのが、忙しい日常生活の中であって、ついつい足を遠ざけてしまう要因の1つなのかも知れません。

そのような思いをおもちの方は、音楽祭に足を運ばれてはいかがでしょうか。4月29日から5月1日にかけて、東京国際フォーラムにおいて『ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン』が開催されていたのをご存じでしょうか。全部で150にのぼる公演を3日間にまとめて実施しようという試みで、フランスのナントという地方都市で1995年から催されている音楽祭の日本版です。「一流の演奏を低料金で提供することで、明日のクラシック音楽を支える新しい聴衆を開拓する」というコンセプトで、1公演あたりの時間も原則45分程度と短く、入場料も1500円から3000円に設定され、色々な公演をご自身の好みで選んで楽しむことを可能とする新しいスタイルの演奏会でした。

残念、もう開催期間が過ぎてしまったではないか」とお思いの方でも大丈夫。日本の各地で、さまざまな特色をもった音楽祭がこれからも続々と開催されます。旅行の計画をお立てになる折に、ちょっと余裕をもって日程に組み込んでみられてはいかがでしょうか。

音楽祭に対して文化庁では、国際芸術交流支援事業や芸術文化振興基金を通じた助成等で活動をバックアップしています。一口に音楽祭と言ってもさまざまな形態があり、公演を中心としたものだけではなく、若い演奏家の育成に焦点をあてたものもあります。代表的なものに、北海道（札幌）で開催される『PMF（パシフィック・ミ



パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)の公演
写真提供：PMF

ュージック・フェスティバル)』（7月～8月）や、鹿児島県（霧島）の『霧島国際音楽祭』（7月～8月）、群馬県（草津）の『草津夏期国際音楽アカデミー』（8月）などがあります。

こうした音楽祭では、世界から集まった一流の講師陣や若い優秀な受講生による演奏会はもちろん、ときには実際のレッスン現場まで公開されることもあります。音楽が生み出されるまでの情熱をひしひしと体感することができるのが、この種の音楽祭の魅力です。演奏家の生の息づかいに一度接したらもう病みつき。お気に入りの注目株を見つけてその後の成長を見守るという楽しみもあります。

もっと積極的にかかわりたいと言う方には、ボランティアとして音楽祭に直接参加してしまうのはいかがでしょうか。音楽をつくり上げていく過程を、スタッフの1人として実際に身近に体験することで、より大きな感動を得ることがきっとできると思います。

今年はぜひ一度、音楽祭にお出かけになってみませんか。

文化庁芸術文化課
芸術文化調査官
小倉信宏

